

喫煙と胃がん発症リスクとの関連

Cigarette smoking and the risk of gastric cancer: a pooled analysis of two prospective studies in Japan.

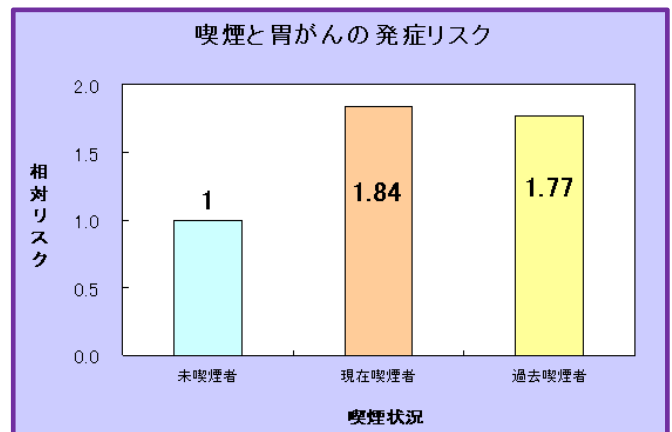
2004 年 International Journal of Cancer 発表

喫煙する人では胃がん発症リスクが高い

喫煙により胃がん発症リスクが増加するかどうかに関しては、数多く研究が行われていますが、結果が一致していません。そこで私たちは宮城県コホート・三府県コホートのデータを解析して、喫煙と胃がん発症リスクとの関連を検討してみました。

その結果、今まで喫煙をしたことがないと答えた人（未喫煙者）が胃がんを発症するリスクを 1.0 とすると、現在喫煙していると答えた人（現在喫煙者）の相対リスクは 1.84、やめたと答えた人（過去喫煙者）では 1.77 でした。現在喫煙者では、喫煙本数が増えるほど胃がん発症リスクが増加していました。過去喫煙者では、禁煙後 14 年経った人でも胃がん発症リスクの増加がみとめられました。

さらに、胃がんを発生部位、組織型に分けて調べてみました。部位では、噴門部・体部では喫煙と関連がなく、前庭部の胃がん関連がみとめられました。組織型では、分化型・未分化型のいずれにおいても喫煙との関連がみとめられました。今回の研究は、喫煙が胃がんの危険因子であるとする仮説を強く支持する結果となりました。



研究のデータについて

ベースライン調査：解析には、宮城県内の 2 つのコホート研究のデータが使われました。1 つめは、宮城県コホートで、1990 年 6 月から 8 月に宮城県内 14 町村在住の 40-64 歳の男女約 5 万 2 千人に対して自己記入式アンケートを配布したもので、うち 4 万 7605 人から有効回答を得ました。回答率は 92% でした。

2 つめは、三府県コホートで、1984 年 1 月に宮城県内 3 町村在住の 40 歳以上の男女約 3 万 3 千人を対象に、生活習慣や健康状態などに関する自己記入式アンケートを配布したもので、3 万 1345 人から有効回答を得ました。回答率は 94% でした。

追跡調査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち三府県コホートの集団は、1984 年 1 月 1 日から 1992 年 12 月 31 日まで、宮城県コホートの集団は、1990 年 8 月 1 日から 1997 年 3 月 31 日まで追跡調査を実施しました。その上で、女性、がんの既往歴のある方、今回の研究に関連する質問への回答に不備のあった方を分析の対象から外しました。女性を対象から外した理由は、いずれのコホートについても喫煙率が 6% 前後と大変低かったからです。三府県コホートでは男性 9980 人が調査の対象になり、うち追跡期間中に 228 人が胃がんと診断されました。宮城県コホートでは男性 1 万 9412 人が調査の対象になり、うち追跡期間中に 223 人が胃がんと診断されました。

喫煙状況について

いずれのアンケートでも喫煙、飲酒、体型、食事などの生活習慣、胃・十二指腸潰瘍の既往歴、胃がんの家族歴などを尋ねています。喫煙状況は「未喫煙」「過去喫煙」「現在喫煙」のいずれかを選んでももらいました。さらに現在喫煙者については一日の喫煙本数、過去喫煙者については喫煙をやめてからの年数も答えてもらいました。

研究の特徴と限界について

この研究の特徴は、一般市民を対象とし長期間にわたって追跡していること、十分な数の胃がん症例を確認しているため胃がんの部位・組織型別の解析結果が提示できていることです。

限界としては、胃がんの危険因子として確立されているヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）の感染に関する情報が得られていないことがあげられます。最近の研究では、ピロリ菌の感染の有無にかかわらず喫煙により胃がんのリスクが同様に増加したことが報告されています。しかし、ピロリ菌感染の有無を考慮した研究は少ないため、さらなる研究が必要と考えられます。

